

医療事故等防止対策委員会の報告

当院で手術を行った患者さんが手術後に、意識消失、心肺停止状態となった事案が発生し、後日患者さんは死亡されました。病院長は直ちに山形大学医学部附属病院医療事故等防止対策委員会を開催、調査専門委員会を設置しました。

調査の結果、1)患者さんの急変の原因は、周術期に発生した可能性の高い深部静脈血栓による肺塞栓症と判定いたしました。また 2)深部静脈血栓の予防処置として当該診療科の学会が推奨しているガイドラインに沿った標準的対応は行われているが、当院において原則使用を求めている院内ガイドラインに沿った予防処置*が行われていないこと、3)院内ガイドラインに沿った予防処置が行われていれば肺塞栓症の発症を予防できた可能性を否定できないこと、以上から、本事案においては、深部静脈血栓の予防法の選択に誤りがあったと考えざるを得ないと、判定いたしました。

この判定に基づき、山形大学医学部附属病院は、調査結果を御家族へ説明、謝罪するとともに、本事案の発生についてホームページに公表することといたしました。

今後、再発防止に向け、予防処置の徹底をはかります。

*本事案においては弾性ストッキング着用が該当していた。

平成 26 年 7 月 28 日

山形大学医学部附属病院長 久保田 功